

総合的な評価ワークショップに係る検討調整会議（第1回）結果概要

日時 平成27年4月24日（金）18:00～20:00
場所 かながわ県民センター 12階 第1会議室
出席者 施策調査専門委員会
伊集委員 鈴木委員 田中委員 吉村委員
県民フォーラムチーム
北村委員 倉橋委員 坂井委員 中門委員 西委員 前田委員 森本委員
オブザーバー 滝澤委員
水源環境保全課 村松部長 内山副課長 葉山GL 高乗副主幹 楚良主事

概要

資料1～3に基づき、総合的な評価プレワークショップ（第24回県民フォーラム）の開催結果及び7月の総合的な評価ワークショップ（第25回県民フォーラム）の開催案等について事務局より説明した。プレワークショップの反省を踏まえ、ワークショップの開催内容に関して意見交換した。主な意見は以下のとおり。（○＝委員、●＝事務局）

議題1

総合的な評価プレワークショップ（第24回県民フォーラム）の開催結果についての感想・反省

会場の配置等について

- 車椅子用の席を予め設置しておいた方が良かった。
- マイクの位置がステージを見上げる形になってしまったのが残念。皆が討論している雰囲気になるようにマイクを配置できると良かった。

事前準備について

- 2階が全て埋まっていなかったため、受付期間を延ばして、200名まで呼び込む努力が必要だった。また、当日の参加者数は事務局も入ったものではなく、純粋な県民の数で知りたい。地域・年齢も資料に載せてほしい。
- 募集締切後も受付はしており、ホームページ等で周知した。地域・年齢が入ったアンケート結果を次の県民会議で資料にする。

内容について

- 予備知識が無い人にとっては、背景をきちんと説明した上で今の取組を紹介しないとわからないと思う。
- 20代と30代が1割程度来たことが評価できる。地下水関係のパネリストがいると良い。質問用紙は事前に配布資料にいれておけると良い。
- パネリストの主張が強すぎると印象に残ってしまうので、課題点を紹介するにとどめるなど、パネリストの役割を整理すべき。
- パネルディスカッションが一番良かったとのアンケート結果が出ている。一方、もっとパネリスト同士でやりとりをしてほしかったとの意見もある。強い主張があっても、それに対立する意見があり、議論できれば、コーディネーターが何が論点になっているのかまとめていければ良いと思う。パネリスト同士の議論を考えるのであれば、そのことを想定した人選をすると良い。
- パネルディスカッションのテーマ決めに関して、いろいろな立場に共通なテーマは包括的なテーマにせざるを得ない。具体的なテーマにすると様々な論点が出てくるが、関わる人が絞られてくる。テーマ選定も難しいところ。

→今回はフォーラム自体が「みんなで～」というタイトルだったので、パネルディスカッションのテーマも包括的になった。タイトルのネーミングでどのような開催内容にするのか、どういう議論にするのか、絞り込めると思う。次のタイトルを「みんなで～」にするのか、「第3期をどうするか」、「第2期までの評価・検証」にするか。

○現場の人にもっと意見を言ってもらいたい。

●今回はある程度知っている方に課題を言ってもらいたいという目的があった。今回のアンケート結果の税を知っている人が8割以上というのはまさにその結果だと思う。次のフォーラムでは一般の人がどう思っているのか、が課題となる。一般の人もしれて課題を言ってもらえる場合、専門的な内容が多いので、わかってもらえるか、気になるところではある。

●説明時間が非常に短い中で、中身は広く、専門的なものが多い。説明内容の焦点を絞れると良い。

実施後

○神奈川新聞に掲載された記事（横浜版）を事務局から送ってもらったが、湘南地域版には記事が載ってなかった。全域に載っていた方が良い。

→県央地域版には載っていた。地域によって見出しが違うようだった。

○認知度について、「知らない」と答えている人が他の項目にどのような答えをつけているか分析してみてもいいかもしれない。

議題2

総合的な評価ワークショップ（第25回県民フォーラム）の開催内容について

会場について

○県西の方から横浜へ来るのはなかなか難しい人もいる。いろいろな人に参加してもらうためには、今回は場所を横浜から変えてもよかったと思う。

●7月より後の県民フォーラムで県央や県西などいろいろな場所を検討していければと思っている。

○会場はできるだけ午前と午後同じ場所のほうが良い。

○タイムスケジュールが参加しづらいのではないかと。お昼の時間が遅いと思う。開始時間をはやめられないか。

●30分程度早められないか、検討する。

開催内容について（全体）

○プレワークショップは取組み状況や現状認識を皆で共有してもらおうということであった。今回はもう一歩ふみこんで、今後に向けて、課題をどうまとめていくか、という話をしないと、次期の話につながっていかないと思う。分科会の位置づけをもう少し明確にして、全体会として第3期につながっていく話のまとめにしないといけないと思う。

○一般の方は午前、知っている人は午後の分科会へ、という分け方にしてもいいかも。

→午前中は一般の人も含めて広く関心をもってもらうような、発信の場にする。午後は実際に活動している人などから評価、提案を出してもらい、次期計画へつなげていけるようにする。

○午前は実績・成果のプレゼンまでやり、それを一般の人に聞いてもらった方がいいのでは。基調講演25分、実績・成果25分にしてはどうか。50分基調講演だと専門的な話になってくるが、25分の方が割り切った話が出る。25分なら知事にも聞いてもらえるかもしれない。もっと踏み込んだ中身の話は午後にしてもらう。

○一般の方を意識するならば、知名度がある人と知事との対談でも良い。

○知事がコーディネーター役で対談してもらおうと良いのでは。

分科会について

- 分科会のテーマについて。「森」「水」などのテーマに分ける案もあるが、共通テーマをグループ毎に討論にすることも考えている。
- 全体の意見集約が30分では難しいと思う。何人くるか、ある程度知っている人がどのくらいくるかで変わってくる。知っている人60~70人くらいで3グループくらいの規模なら分科会もできると思うが、200名集めるのであれば、パネルディスカッションで次期計画の話をした方が良いかもしれない。
- 県民会議から次期計画へ向けて意見書を出すにあたって、まずたたき台を作って、ワークショップの午後で示して意見をもらうというやり方にした方が良いかもしれない。
- 分科会のテーマは事前に案内しておいた方が意見が出やすいと思う。
- 分科会は共通のテーマで実施し、その中で主にこれを論点にする、という特徴付けをした方が、全体討議の際に深まるかもしれない。

その他

- 議員に施策を知ってもらうため、今回のワークショップに参加してもらうことを検討すべき。参加しないのであれば何故呼ばないのかも話しておく必要がある。
- 次回の検討会議をスムーズにするためには、事前に意見を集約しておいた方がいい。論点リストをつくっておく。
→今回の議事概要を事務局から各委員に送り、各委員からの検討論点があればそれも共有してもらいたい。